

やさしい
言葉の
一
転語集



【無季】

昨夜 太陽 海の彼方に沈み去るも、
今朝いつもの如く 紅にかがやき 昇りくる

陽・仏性 「昨夜金鳥飛んで海に入り、暁天旧きに依って一輪紅なり」

天上に星あり 等しくめぐる円き空
地上に川あり 流れていたる青き海

仏性 「天上に星あり皆北に拱す、人間水として東に朝せざるは無し」

空晴れて 日はくまなく輝きわたり、
雨降れば 大地あまねく潤う

天・晴 「天晴れて日頭出で、雨下りて地上湿う」〔無門関〕

宇宙の燃えつき 空と化して後 何れの処にか去る
日輪 西に傾き ますます紅を増す

日輪 「劫火洞然として何れの処にか去る、日輪晩景倍す紅を増す」

心の思いの行く末を 尋ねてみても 無益なり
鳥は飛んで 空に跡を残さず

心・空 「更に尋ね覚むる処無し、鳥跡空中に印す」〔白氏文集〕

雨あがり 雲晴れて 空澄みわたり、
一輪の明月 前方の山にのぼれり

月・晴雲 「雨歇み雲開いて天宇浄く、一輪の明月前峰に上る」

心なく 静かに水をたたえる 池あれば、
おのずから 影を映して 月円かなり

静・月・円

苦楽生死は 別のものにあらず

月に満ち欠けあれども 同じ月なり

月

夜な夜な 水に映る月なれど、
手にすくつて初めて知る 月はただ空にあることを

月 「万古碧潭空界の月、再三撈撫して始めて応に知るべし」〔伝灯録〕

人の世の すべて忘れて 何ごとも無し
山の上には白い月 ただ浄土の道を照らし出す

月・照

山中の月は 白雲と共に静かなり
海上の月は 波に和して跡を留めず

月

請う見よ 青山動かざるといえども、
波間に浮かぶ明月 流れに随う

明月 「岸上の青山不動なりと雖も、波心の明月去いて流れに随う」

今夜 安養の浄土に行き去る

西方の山 一輪の満月 静かに上りゆく

安養・月 「今夜却つて安養に行き去り、西山の玉兔忽ち輪を推す」

一陣の清風吹いて 雲すべて払われ、

月は玉のごとく輝き 青山に上る

月・玉 「風碧落を吹いて浮雲尽き、月青山に上る玉一団」

昨夜 生死の縁を尽し 身を翻し去る

余し得たり 天空の月一輪

月 「端無く昨夜踏翻し去る、余し得たり天辺の月一輪」

月は照らす 幽かな窓の外

松は青々として 碧流れんと欲す

窓・松青 「三更月は照らす幽窓の外、松竹青青として碧流れんと欲す」

闇夜のはてに 一輪の月上りきて、

もと来たる仏の故郷 照らし出す